



文のいへ長折る  
申



特別  
イ 4  
3163  
107(2)





貴  
14  
3163  
107(2)



羨濃乃家つやお深の中にもま

續古今集

春歌上

建保三年五月廿五日

青柳川もさなれば波もささく  
ゆがみささく。 口のふしきねの  
祖かゆ。 三の白くさなまの  
波もささくささく。

春のささくささく 後東抄抄改

事あるはれさなれば波もささく  
清くさなまの川もさなればささく

○建保三年五月廿五日







美しき花の香をよみしは  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす

第一序

長生草の心

あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす

花

後鳥羽院宣旨

あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす

あはれなる心ぞもよほす

春歌下

あはれなる心ぞもよほす 後鳥羽院宣旨

あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす

あはれなる心ぞもよほす

あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす  
あはれなる心ぞもよほす



あはれなる花のうらみはなほ  
あはれなる花のうらみはなほ  
あはれなる花のうらみはなほ  
あはれなる花のうらみはなほ

大綱之通具

あはれなる花のうらみはなほ

花

鴨長明

あはれなる花のうらみはなほ

大綱之通具

大綱之通具

あはれなる花のうらみはなほ

一  
夏  
一

正治二年百首歌小

宅家

あはれなる花のうらみはなほ

秋歌上



百三十一の巻

順徳院抄

此の巻に云ふ事なるは、  
上は、此の巻に云ふ事なるは、  
下は、此の巻に云ふ事なるは、  
此の巻に云ふ事なるは、

道徳法親王の御事

此の巻に云ふ事なるは、  
此の巻に云ふ事なるは、  
此の巻に云ふ事なるは、  
此の巻に云ふ事なるは、

巻一

大徳院抄

此の巻に云ふ事なるは、  
此の巻に云ふ事なるは、  
此の巻に云ふ事なるは、  
此の巻に云ふ事なるは、

秋夕

定家

秋夕の巻に云ふ事なるは、  
秋夕の巻に云ふ事なるは、

建仁元年

定家



つらねかきつづきしやまのいはの國のあしきの運の秋もくまを  
秋の夕ふりつちの霞かきまらぬふくまのふくまのふくまのふくま  
まがらふまはまをくまのまにまがらふまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま

伊勢のまがらふ

後名神院沙製

みづかきつづきしやまのいはの國のあしきの運の秋もくまを  
秋の夕ふりつちの霞かきまらぬふくまのふくまのふくまのふくま  
まがらふまはまをくまのまにまがらふまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま

ふかきつづきしやまのいはの國のあしきの運の秋もくまを  
秋の夕ふりつちの霞かきまらぬふくまのふくまのふくまのふくま  
まがらふまはまをくまのまにまがらふまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま

前月大に基家おそい合ふ 七法門院小宰相

初め秋のまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま

秋歌下

十そ歌合

七法門院

まの川秋の二葉のまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま  
まがらふまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはまのまはま



























續拾遺集

春杳下

西華道人道希左故大臣如世首

蘇亦信實物片

雲  
本歌

七涉口内大臣家分合了 雨中一蘇花

字

一  
中歌

那のゆり  
ゆりゆり  
ゆりゆり

雲  
本歌  
中歌



夏歌

浦云

如新法作

うづもれぬこれや龍波のまがしほ  
うづもれぬこれや龍波のまがしほ  
うづもれぬこれや龍波のまがしほ  
うづもれぬこれや龍波のまがしほ  
うづもれぬこれや龍波のまがしほ

秋歌上

龍一とん

順徳流沙製

かろし人ふ山等の意のまじらふ  
かろし人ふ山等の意のまじらふ  
かろし人ふ山等の意のまじらふ  
かろし人ふ山等の意のまじらふ  
かろし人ふ山等の意のまじらふ

まのまを来やうと。う。持人小孫と。霞の白くあま

まのまを来やうと。う。持人小孫と。霞の白くあま

行路為

藤不遠旅歌

神の歌をうたふ人よまよまよ  
神の歌をうたふ人よまよまよ  
神の歌をうたふ人よまよまよ  
神の歌をうたふ人よまよまよ  
神の歌をうたふ人よまよまよ

秋歌下

建條百々歌

後久家古歌大尺

月おゆきまはらふらふら  
月おゆきまはらふらふら  
月おゆきまはらふらふら  
月おゆきまはらふらふら  
月おゆきまはらふらふら



二二〇のうたが歌の題に  
The name of the  
place is written in  
the margin of the  
book. The name of  
the place is written  
in the margin of the  
book. The name of  
the place is written  
in the margin of the  
book. The name of  
the place is written  
in the margin of the  
book.

後本抄抄改

二二〇のうたが歌の題に

あつたふりしつとせし  
なまふ あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし

よこのひのうたが歌の  
題に The name of  
the place is written  
in the margin of the  
book. The name of  
the place is written  
in the margin of the  
book. The name of  
the place is written  
in the margin of the  
book.

あつた

後本抄抄改

あつたふりしつとせし  
なまふ あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし  
あつたふりしつとせし

あつたふりしつとせし















抱ふせぞ海にまよき。 三の白の梅をせぞく。 三の神  
はるもあまの麻をさす。 三の白の梅をせぞく。 三の神  
とくはあまの。

歌一しん

俊成

もつとも神をさすをれを扱ふ。 三の白の梅をせぞく。 三の神

恋歌三

みよふまをれ合ふ

能登

かきこもふまよのめね波のよきへまよつともれをさすの浦に  
のゆへ波の縁。 三の白の梅をせぞく。 三の神

波のよきへまよつともれをさすの浦に

美つともあまの海へあづはつれあふ。

洞院持政首言。 三の白の梅をせぞく。 三の神

よ。 三の白の梅をせぞく。 三の神

あまの海へあづはつれあふ。

みよふまをれ合ふ

通具

あまの海へあづはつれあふ。 三の白の梅をせぞく。 三の神  
初二白の梅をせぞく。 三の神  
あまの海へあづはつれあふ。 三の白の梅をせぞく。 三の神  
つがふ。 三の白の梅をせぞく。 三の神



意一十四

弘長元年百三十九年可也

常盤井入道右大臣

ねむりてまよひてゆきも教ふにふりぬるもの人よ  
 人のいふまじりて死ぬるもの人よ  
 た国に世ふてくまをてん教ふもの人よ  
 まの国おいらしむもの人の梅もさかす  
 又のまの国にまよひてくまを  
 んのまの国にまよひてくまを

初とてまよひてくまを

ねむりてまよひてゆきも教ふにふりぬるもの人よ

た国に世ふてくまを

初とてまよひてゆきも教ふにふりぬるもの人よ  
 ねむりてまよひてゆきも教ふにふりぬるもの人よ  
 た国に世ふてくまを

つねに

順徳院御製

ねむりてまよひてゆきも教ふにふりぬるもの人よ



中身今をくもるがごとく一はれふかぬをばつてのまゝに  
うろろいふる。神二白ふがなれすべしとのまゝに  
上る。神のまゝにうろろいふる。神のまゝに  
やうにうろろいふる。神のまゝに  
白ふがなれすべしとのまゝに  
ひたつてふちをくもるがごとく一はれふかぬをばつてのまゝに  
やうにうろろいふる。神のまゝに

建保五年三月廿九夜 夜恋 神隠し

わうせく神のまゝにうろろいふる。神のまゝに  
神のまゝにうろろいふる。神のまゝに

うろろいふる。神のまゝに

夜恋

文治二年九月十二夜

うろろいふる

うろろいふる。神のまゝに  
三の白もいふる。

神隠し

うろろいふる

神隠し











Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of several lines of notes and rests.

おしり

建保二年一月廿日金沢西定家

Handwritten musical notation in a cursive style, continuing from the previous page.

Handwritten notes in a smaller, more formal script, likely providing commentary or instructions related to the music.

四軒旅奇

旅のこころ

おしり

Handwritten musical notation in a cursive style, continuing from the previous page.

恋孔三

歌しらべ

武乾門院清画

Handwritten musical notation in a cursive style, continuing from the previous page.



















Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

建保三年四月廿一日

定家

Main body of handwritten text on the right page, enclosed in a rectangular border.

Handwritten text at the bottom of the right page, below the main body.

建保三年

後京極權近守

定家

Main body of handwritten text on the left page, enclosed in a rectangular border.

建保三年

持中納言

定家



それさふふもあやすらんかふかふらんあふらんあふらん  
三の白雲の流るらんあふらん。下白雲の流るらんあふらん  
あふらんあふらんあふらん。あふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらん。

歌一らん

情ぬめりも今あふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
今あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん。

新三

係延の以速換るるあふらんあふらん 係延の

あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん

あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん

あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん  
あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん

あふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらんあふらん







ふきりていふことなるをぞいふことなる。

甘夏

浄教

順徳院浄教

新嘉くみづみう人形ふかき物来まきの記さうとさうりぢ  
建保六年四月庚申みまゝふ夏曉

神籠り

夏草れ落ふ衣はぐらもあつこあきき神ぞよへん  
建保六年五月さうりなまの可

さくま

夏草かきあつていふことなるをぞいふことなる。

秋歌上

なほふきあつていふことなるをぞいふことなる。

さくま

むすびあつていふことなるをぞいふことなる。

秋歌下

月のみまゝいふ

俊来つ女

君もも忘れぬ月の新ぞさうもまがさる庭の片草のさうりなま  
初音かき三れおのさうりなまのさうりなまのさうりなま







あゝとていふ

恋の音

恋の音とていふ初意 後条拾遺

あゝとていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ...

恋の音

恋に元来あつたあやうな時 定かた

かゝるやうなあやうな秋風... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ...

續後拾遺

未だ

建仁四年後を記院ふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ... 恋の音とていふ...

恋の音



久松のついでに...

長歌下

秋の夕暮の静けさ...

静寂

久松のついでに...

秋の夕暮の静けさ...

秋の夕暮

秋の夕暮

静寂

秋の夕暮の静けさ...

秋歌上

建保二年丙午...

定家

秋の夕暮の静けさ...

秋の夕暮

秋歌下

建保二年丙午...

静寂







意三

浄歌一

順徳院浄歌

あまのついでにわがまをいそよよたてしむるまのこころ  
たのしみはなほあまのついでにわがまをいそよよたてしむるまのこころ

まのこころをいそよよたてしむるまのこころ

後名取院下歌

ふゆやあまのついでにわがまをいそよよたてしむるまのこころ  
たのしみはなほあまのついでにわがまをいそよよたてしむるまのこころ  
あまのついでにわがまをいそよよたてしむるまのこころ  
たのしみはなほあまのついでにわがまをいそよよたてしむるまのこころ

浄歌一

浄歌一

浄歌一



万葉集畧解目録全二冊 尾州名古屋本町寺目 永樂屋東四郎

萬葉集畧解目録全二冊 尾州名古屋本町寺目 永樂屋東四郎

此書を編の千原大人著せる畧解の目録あり古より未訓点の詳  
りきりきり初学の爲に考へ古云を訂し訓点を施し今の代に通  
易のしめしき書くの類を多く奉給強求むる便とす簡略を  
記し又校異本付丁敷とも並べ記し古くは類毎の字を五十韻に  
あてて便法を備へたり今に訓点を懸境し古くは古人の名おび  
官名地名等の讀法をも後古云の意をも得むとす



